

自然と共生する農業

～減農薬・無農薬・無化学肥料栽培へのご提案～

農業に係わる農業者はもちろん、農産物の流通業者も消費者も「無農薬」「無化学肥料」を望んでいます。それなのに、なぜ、それが叶わないのでしょうか？

1. 原因の大きな一つに、“農薬や化成肥料を使わなくても作物はできる”という観念が無くなってきた。
2. 反対に、“農薬や化成肥料を使わないと農業はできない”と思い込んでしまった。
3. 「欠くことのできない第一番目の生命の基本を生み出す」という農業の真の使命と役割について理解しようと考察する態度が失われてきた。
4. 周りの情報（化学・薬品メーカー、他）に誘導され、目先の損得に囚われ、^{ひと}他人の都合や権威・圧力に振り回され、農業を営む真の目的を自らの意思で考えられず、見失い判断できなくなっていることに気付けない。気付いても修正が難しい。
5. 「自然環境保全」や「自然との共生」、即ち、田んぼや畑、小川に棲む微生物やゲンゴウロウ、トンボ、カエル、蜘蛛、ミツバチ、小鳥など小動物たちと共生することの意味、必要性、重大性が見失われてしまった。
菌＝バイ菌、虫＝害虫、害鳥獣 ➡ 殺菌、殺虫、駆除と一方的、単純短絡的思考。
6. 私たちの棲むこの世界、宇宙や自然（小宇宙といわれる土壌や人体を含めた）の生態系や循環がいかにか素晴らしく、かけがえのないものという認識が薄れてしまった。
7. この『系』や『環』を農薬など化学物質で断ち切ることの影響と問題の大きさを伝えて来なかった（教育）など。



では、どうしたら「無農薬・無化学肥料栽培」ができるのでしょうか？

まずは“無農薬・無化学肥料でも農業はできる”と確信し不退転の覚悟で取り組む（傾聴、勉強、試行、実践）ことであり、古くて新たな価値観を自ら創り上げていくことではないでしょうか？

農業は大変！簡単ではないとよく耳にしますが、どんな仕事にも艱難辛苦は付きもの。大企業でも銀行でも油断し、何かが欠けると倒産するのです。倒産しないために、儲けるために自然に反することをしたら、それこそ倒産が早まります。

農業は生命の基本を生み出す第一次産業の一つです。生命を奪う方向のマイナスや毒が懸念される化学に頼る「一時産業」に落ちてしまってはならないと思います。

私どもは、鋭意「減農薬栽培」「無農薬栽培」、或いは「無化学肥料栽培」の農家さんとの繋がりを拡げ始めています。この方向で取り組んでおられる篤農家さんにお話を伺いました。そのノウハウや印象深い言葉は次のようなものです。（手厳しいですが・・・）



1. 農家が農薬を使う理由を並べるのは、農業者としての資質や責任・能力をごまかす言い訳でしかない。
2. 自分が食べるものに、農薬を掛ける農家は殆どいない。
3. “農薬を使わなければならない”という常識・観念から離れること。他人が勝手に農薬や化学肥料を使うための条件作りをしてきただけ。それに自分が乗せられてきたということに目覚めること。
4. 農薬を使うか、使わないかの差は作物によるが、収量で▼5%～▼20%の範囲であろう。勿論、無農薬栽培という市場ニーズに応えることと経費削減できたことで、経営面ではむしろ健全化が図れている。
5. 農薬や化学肥料を使わないと決めたら、何が何でも使わない。
6. 作物に合った土作りができていのかどうか重要なポイントになる。
7. 病原菌や害虫の発生時期や食害がいつ頃始まるか、近隣の圃場の動きなどを見ながら、早からず、遅からず、の播種や定植をする。
輪作すべきものは輪作するのが当然だが、前期の病害虫を見て、病害虫に被害を受けた木や株、根などは圃場外へ持ち出し焼却処分する。
8. 多品種生産へ移行しながらリスクを分散し、天候にも十分気配りする。

野菜の例：日取り野菜と貯蔵野菜の圃場は土質と自宅からの距離を考えて作る。

- 10・良く世話をする。例：日当たり、風通しなど。
- 11・機械や薬に頼ると、見えるものも見えなくなる。薬（農薬・消毒剤）を使っても虫はつく。畦にいっぱいいる。
- 12・病原菌や害虫の天敵を生かすことで食物連鎖という自然生態系の中で最適環境ができてくる。そうなれば薬は無用となり、自分も消費者も安全で美味しいものが食べられ健康になる。農薬の使用は病原菌や害虫のみならず、それらの天敵や益虫をもせん滅して、この多様性のバランスという環境、生態系を壊してしまう。

では、理想としては「無農薬・無化学肥料＋有機質肥料」にすることが最善としても、その『道しるべ』はあるのか？精神論だけではどうにも・・・ということになります。

実際に徹底した「減農薬・無農薬・有機質肥料栽培」を継続して大きな成果（結果）を残しながら来られている米作り、野菜作り、果物作りの生き字引的な農業者の方もおられます。その方々にそのノウハウをお聴きするのも大いに参考になります。

以下にご紹介しますのは、「減農薬・無農薬・有機質肥料」へ向かうための方策の一つです。理屈もとても大事ですので、先ずは真摯に受け止め、ご検討ください。

1. 健康な人には病気はありません。だから、医者も薬も要りません。動物や植物も同じです。健康で強ければ、病原菌や害虫の心配も少なくなります。

2. なぜ病気にならないのか？それは、元気だからです。元気であれば病原菌などを寄せ付けないパワー（忌避能力など）が十分に働いていると考えられます。
3. では、なぜ元気なのか？
・・・若いから！水や空気がいいから！日当たりがいいから！水はけがいいから！栄養が豊富だから！仲間が助けてくれるから！周りから認められ褒められ感謝されているから！エネルギーに満ち溢れているから！・・・。
人間も動物も植物も微生物も同じではないでしょうか？これをひと言で言いますと、『環境』がいいからです。環境がいいと、生命力が活性し活力が湧いてきます。これを賦活（ふかつ）と言います。
4. 人間にとって住む家が大事なように、植物にとっては土が大事です。他の多くの条件も勿論大切ですが、作物にとっては『土作り』が何より最も大事なことです。いい土は水、空気、微生物、ミネラルなどの内容とバランスが良くなっています。
5. いい土は、いい匂い、いい味がします。目には見えませんが、その圃場に居るだけで気持ちがよくなります。
6. 『環境のいい土作り』ができれば、そこに育つ作物は元気で美味しくなります。

今までの農学だけで良ければ、既に十分に立派な土作りができて作物ができ、農薬など要らないはずですが、現実はどうでしょうか？

当然、作る作物によって、土の質、土壌の化学性、物理性、微生物性など基本的な条件は農学的見地からも大事な要素です。これらの要素を踏襲したとしても、病気は蔓延り、害虫の食害は無くなりません。その対策で農薬や化学肥料を多用すると新たな病害虫は増え、連作障害は出て作りづらく、なかなか収量は上がらず、昔懐かしい美味しさは無くなり、“日本人は医者と薬が大好きな国民”と世界から揶揄されている状況です。

解り易い例として、病気がちで元気のない時に、頭から農薬を掛けられたらどうでしょうか、元気になりますか？このような反自然な行為を繰り返して土は良くなりません。環境は劣化し、作物もそれを食する人間も健全体にはらず、『医食同源』には程遠いです。

以上のことから、今まで何か必要不可欠なものが欠けていて、それが土壌中に有ると土が良くなり、作物が元気に育ち、農薬や化成肥料を減らせる、或いは無くせるかも知れないということになりそうですね。

それが、私どもが提唱している『環境エネルギー』の不足です。前述の3. ～6. 項の内容です。“栄養分とは違う環境を良くする何か”が環境エネルギーです。

この環境エネルギーをバランスの良いミネラルに抱かせて、土壌改良剤としてあらゆる作物の圃場に撒いているのが『LOA アースパワー』です。

日本の土壌に不足しているミネラルの補給にもなりますが、環境エネルギーが貴まると、



- ・微生物がバランス良く増え、有機物の分解醗酵が早まります。
- ・土壌の酸化やイオン化を抑制し浄化も助けます。
- ・堆肥作りに LOA アースパワーを少量加えることで、短期間に分解醗酵し完熟堆肥を作ることができます。（他の効能効果は商品のチラシや説明書、実践例をご覧ください）

この『LOA アースパワー』を1年に1回適宜投入することで、作物は年々生命力を増していきます。マイナス面は一切報告されていませんので、多く使えば多いほどいいのですが、作る作物によって調整してください。

特徴的な効果として、果樹栽培においてJAの指針（ローテーション）に沿って農薬を散布しても、果物の種類や収穫時期に関係なく残留農薬（200項目以上）検査で全く検出されませんでした。そして、とても美味しく、秀品率が高まり収量も多くなり、圧倒的な日持ちもします。環境エネルギーが高まることによる驚異的な変化と捉えています。

しかしながら、農薬や化学肥料を使う「負」の部分が全部無くなる訳ではありません。LOA アースパワーを使うことで、消費者の健康面や土壌の劣化に対しての問題は無くなります。しかしながら、農薬を使う農業者の健康を損なうことには変わりありません。また、土壌微生物や小動物たちの生命を奪うことも確かです。由って、農薬や化成肥料は少なくする、或いは使わなくするに越したことはありません。（費用面、労力面から見ても）

そこで、LOA アースパワーを使いながら、農薬や化成肥料を減らし（通減）していき、4～5年後を目途に、「無農薬・有機質肥料栽培」へ切替えていけるご提案が下の表の通りです。但し、リスクと向き合うだけの覚悟と勇気、努力、継続が求められます。

むしろ、既に「減農薬・無農薬・有機質肥料」への転換をされ実践されている農業者の方への有効且つ強力な支援策、応援策になると言った方がいいかも知れません。

無農薬・無化学肥料化 5年計画（案）

実施年数	LOA アースパワー	農薬（％）	化成肥料（％）	有機質肥料（％）
1年目	2袋（40kg）	100	現状のまま	現状のまま
2年目	同上	70	50	50
3年目	〃	50	10	90
4年目	〃	30	10	90
5年目	〃	0	0～10	100～90



※LOA アースパワーを毎年定量、若しくは多めに入れることにより、不足がちなミネラルの補給がされます。土壌の環境エネルギーは腐植同様に消費されながらも蓄積されていき、環境レベルの貴い『土』という財産となります。

※自然の力で自然を補い、自然の力で自然を抑える工夫が求められます。

☆自然と共生し、愛と調和と感謝に根ざした社会へ☆